

授業科目名	忍ヶ丘教養 I	教員名	渡邊耕二 城戸佐智子	免許・資格 との関係	小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	必修
					保育士	必修
					こども音楽療育士	
科目番号	SIN103	配当年次	1年後期	卒業要件	小幼コース	必修
授業形態	講義				幼保コース	必修
単位数	2単位					
科目						
各科目に含める 必要事項						
科目						
施行規則に 定める科目区分						
科目						
系列						
一般目標	<p>1年次から2年次までの2年間4期に渡って開講されるフレッシュマンセミナー～忍ヶ丘教養Ⅰ～Ⅲは、学校法人宮崎学園の建学の精神「礼節・勤労」に則り、豊かな教養と高度な技能を備えた人材を育成するために、大学での学びの基礎を学習し、コミュニケーション能力に優れた教育者となるための基盤を身につけることを目標とする。さらには、地域社会から国際社会にまで広く貢献できる教員となるために必要な基本的知識・技能及び人格形成を目指す。これらの目標を達成するため、忍ヶ丘教養では「大学での自主的・継続的な学習能力の修得」、「コミュニケーション能力の修得」、「地域・国際社会における教育の理解と教育者としてのキャリア形成」の各教育目標を達成するための授業を行う。</p> <p>このうち、忍ヶ丘教養Ⅰは、「大学での自主的・継続的な学習能力の修得」と「コミュニケーション能力の修得」をテーマとしており、以下の3つの到達目標を設定する。</p>					
到達目標	<p>(1) 自主的、継続的な学習を進めていく上で必要な学習方法・学習スキルを修得する。 (2) 正しい日本語運用し、自分の意見の論点をまとめて論理的に相手に伝えることができる。 (3) 特定のテーマについてグループ内でディスカッションし、グループ内で意見をまとめ、1つの見解を得ることができる。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	<p>本講義は、学科のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている、2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている、3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。</p>					
授業の概要	<p>授業の構成は、大きく4つに分かれる。①コミュニケーションの目的について学び、聴き方についての基礎的な技術を学ぶ。②正しい日本語を運用する力は、大学での学び、優れた教育者となる基盤になる。正しく日本語を運用し、自分の意見や論点を分かりやすく書く・話すことを学ぶ。③学術論文を読む意義を知り、学術論文の構成、読み方を学ぶ。④③プレゼンテーション及びディスカッションのテーマを自分達で設定し、自分達の主張を正しく相手に伝えるための資料作成、それを分かりやすく口頭で説明できるようになるために、プレゼンテーションの技術や説得の技術を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（城戸佐智子／4回） <p>コミュニケーションの目的や課題について学び、コミュニケーションとは何かを理解する。また、社会人としての伝え方や会話のマナーについて学び、実際の場面において効果的なコミュニケーションの方法を具体的な事例から学ぶ。聴き方についての基礎的な技術を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（渡邊耕二／3回） 					

	<p>正しい日本語による書く力と話す力の必要性を理解し、自己流に陥らない書く力の基礎（主題が明確である文章、間違いがない文章、いたいことが端的に表現されている文章）について学ぶ。</p> <p>（渡邊耕二／4回）</p> <p>大学において自主的、継続的な学習を進める上で必要となる学術文献の理解と活用に関する応用的な事項（英語で書かれた専門書や文献の読み方、情報・文献の集約、整理、考察の方法など）について学ぶ。</p> <p>各授業は、プレゼンテーション、グループディスカッション、ディベート等のアクティブラーニングを取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（城戸佐智子／3回） <p>プレゼンテーション及びディスカッションのテーマを自分たちで設定し、自分たちの主張を正しく相手に伝えるための資料作成、及びそれを相手にわかりやすく口頭で説明できるようになるためのプレゼンテーションの技術や説得の技術を学ぶ。</p>
履修条件・ 注意事項	フレッシュマンセミナーを履修しておくこと。
授業計画	<p>（担当：城戸佐智子／4回）</p> <p>第1回：コミュニケーションにはどのような形態があるのかについて、グループで考え、それぞれのコミュニケーション形態の特徴について、意見を述べ合う（目標1）</p> <p>第2回：社会人としての伝え方や会話のマナーについて学び、ロールプレイ等を通して望ましい姿勢などについて意見を出し合う。（目標2）</p> <p>第3回：肯定的に相手の話を聴く方法を学び、ロールプレイ等を通して身に付ける。（目標1）</p> <p>第4回：話を聴きながら効率よくメモを取る方法を学び、ロールプレイ等を通して実践的に身に付ける。（目標1）</p> <p>（担当：渡邊耕二／3回）</p> <p>第5回：分かりやすく簡潔な文章（主題が明確である文章、間違いがない文章、言いたいことが端的に表現されている文章）について理解する（目標2）</p> <p>第6回：分かりやすく簡潔な文章の例を調べ、書く力を向上する方法について学ぶ（目標2）</p> <p>第7回：課されたテーマについて文章を書き、推敲を重ね、書く力を実践的に高める（目標2）</p> <p>（担当：渡邊耕二／4回）</p> <p>第8回：大学における学習や研究を進める上で必要になる学術文献とは何か、またその種類について理解する。また、学術論文の検索方法についても学習する（目標1）</p> <p>第9回：英語で書かれた文献を含む学術文献の構成や各箇所には何がどのようにいるのかを事例を通して学ぶことで、その効果的な読み方を身につける（目標1）</p> <p>第10回：収集した学術文献をどのように集約及び整理したら良いのかその方法を学ぶ（目標1）</p> <p>第11回：学術論文を収集し、研究の背景、目的、方法、結論を読み解き、整理することを学ぶ（目標1）</p> <p>（担当：城戸佐智子／3回）</p> <p>第12回：グループに分かれ、教育問題に関する与えられたテーマに沿って学術文献を選び、収集する（目標2、3）</p> <p>第13回：グループ毎に収集した教育問題に関する学術文献の要約を基に発表資料を作成する（目標2、3）</p> <p>第14回：グループ毎に教育問題に関する学術文献の要約を発表する（目標2、3）</p> <p>（担当：渡邊耕二／1回）</p> <p>第15回：インターネットを介したコミュニケーションやプレゼンテーションのツール（SNSやZOOMな</p>

	<p>ど)が社会に深く寄与することを踏まえ、現在の情報社会(数理・データサイエンス・AI教育)について講演を聞き、理解する(目標1)</p> <p>定期試験</p>
学生に対する評価	<p>到達目標1～3の到達度を評価するために、定期試験(50%)とレポート・プレゼンテーション(50%)を総合的に評価する。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
時間外の学習について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習：毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。</p> <p>事後学習：学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めること。授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求める。</p>
教材にかかわる情報	<p>テキスト：適宜資料を配付する</p> <p>参考書：特になし</p> <p>参考資料等：特になし</p>
担当者からのメッセージ	<p>教員や保育者を目指すためには、しっかりしたコミュニケーション力と専門的な知識・技術を身につけることが求められます。それらを身に付けるべき基本的な方法を学び、2年次以降の学びの質を高めてほしいと思います。</p>
オフィスアワー	<p>渡邊耕二：木曜日 15：00～17：00 Email: kwatanabe@edu.miyazaki-mic.ac.jp</p> <p>城戸佐智子：木曜日 13：00～16：00 Email: skido@edu.miyazaki-mic.ac.jp</p>
備考	